

まえがき

本書は、新興諸国で高まる資本財需要を日本がシェアできるかどうかについて、資本財のなかでも日本が最強の国際競争力をもつ工作機械に焦点を当てて分析している。

結論からいえば、極めて低価格の工作機械を別とすれば、ロシアの資本財市場ではドイツの工作機械がその需要を多くシェアし、他方、ベトナムについては、日本の工作機械に対して潜在的需要が極めて多い。ロシアではドイツの工作機械への需要が多く、ベトナムでは日本の工作機械への潜在的需要が多いのは、直接投資が影響しているためであるとみられる。直接投資で進出した企業が、母国の工作機械を持ち込んで現地で生産するのは当然として、調達などを通じて母国の技術体系を間接的に普及させるからであるとみられる。直接投資以外では、過去に伝播した技術体系も強く影響するとみられる。すなわち、留学した先の国や大学の影響、過去に勤務した外資系企業における実務体験などである。直接投資による技術の伝播を一次的技術伝播の概念、留学や過去の実務体験にもとづくものを二次的技術伝播の概念とすると、ロシアでは一次のおよび二次的概念の技術伝播は、ドイツからの影響が強いようにみられる。他方、ベトナムについては二次的概念の技術伝播はソ連と東ドイツからの影響が強く、一次的概念の技術伝播は日本や台湾からの影響が強い。

新興諸国が経済成長のため必要な資本財をどこから調達するかを考えれば、自給は日本の経験などをみても難しく、先進諸国から輸入して調達することになる。それら先進諸国のなかでもどこの国から輸入するかを分析してみれば、そこには目にみえないものの一次的概念または二次的概念の技術伝播によって作られる技術ネットワークが影響を与えている。技術は図面という紙の上にあるものではなく、人の思考にあると考えれば当然のことである。

本研究会は、2007年から2008年まで実施された「ロシアとベトナムにおける資本財市場の誕生」研究会（主査：水野順子）の最終成果である。

本書は、文献・統計調査、国内の調査、現地の調査などの手段で得られた情報を用いて分析されている。本調査実施にあたり、多くの方々からご協力をいただいた。現地および日本でヒアリングに応じていただいた企業および個人の方々には改めて深く感謝を申し上げます。特に森和夫 栃木県産業技術センター所長、リアボフ・オレグ 産業技術総合研究所主任研究員、宮崎公孝 森精機製作所ゼネラルマネジャー、菅原信夫 Sugahara&Associates INC. 代表取締役、松原武夫 ヤンマー株式会社専任課長、荒木義宏 ジェトロ海外調査部主査（各敬称略）の皆様には全面的なご協力をいただいた。また本書は、内藤真弓、永野のりえ、永野康子（敬称略）の方々の協力なくしては到底完成しなかった。ここに記して深く謝意を表す。

2009年11月
編者